



プログラム
11

地域包括支援体制推進協議体「のみ共」

～地域共生推進に向けた取り組み報告～

実行主体：能美市健康福祉部いきいき共生課

日時：2月25日（金） 19時～21時

会場：辰口福祉会館 大研修室 *会場とオンラインのハイブリッド形式

参加者：会場36名、オンライン34名



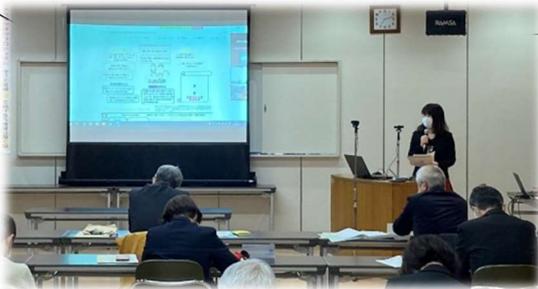
内容 横系プロジェクトチーム長の番匠副市長の開会挨拶の後、地域共生社会の実現を目指すために、市の関係部署の縦割りから丸ごとへの転換を図った「横系プロジェクトチーム」と、市民活動の横系でのつながりを目指す「地域包括支援体制推進協議体（のみ共）」の2本柱で、市民、関係団体、法人、企業、行政が一体となって取り組む「市の地域共生推進体制」の説明がありました。

今回のプログラムは、初めて市民の公開形式とし、座長である北陸先端科学技術大学院大学の山本教授の進行のもと、市の横系プロジェクトチームより、健康寿命を延ばすために新たに取り組んだ、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業の報告がされ、重症化(個別支援)・フレイル(集団支援)予防の重要性を確認しました。

また、その中で出された、「高齢者の集いの場への送迎」の課題は、地域と関係機関との連携によって地域の互助活動につなげた事例が紹介されました。

さらに、複数課題を抱える世帯をチームで支援する相談支援の体制づくりや、地域と医療・介護の連携体制として、今後導入するデジタル技術についての説明がありました。

最後に同志社大学社会学部 永田教授より、「多様な取り組みを積み重ねていくことが、地域共生社会の実現につながる」とのアドバイスがありました。



地域共生推進体制の報告をする
市いきいき共生課半田課長補佐



互助活動に取り組んだ事例を紹介する
「粟生リンクの和」代表 重田氏

参加者の感想（一部抜粋）

- 健康寿命の延伸について、フレイル予防の重要性をもっと多くの人に知っていただくことが大切。
- 市の相談支援体制のしくみを理解できた。見守りあんしんマップの活用がデジタル化により、有効であると感じました。
- 互助活動での送迎支援の取り組みが、能美市全域に広がっていくとよいと思いました。
- 多様な取り組みを行政や地域資源が連携している能美市は、素晴らしいと感じました。しかし、ギリギリの状態で行政に駆け込む方も多いと聞いています。市民の一人として広く市民の方に伝えることが大切と感じました。